

## 活用実践事例

授業の概要					
学校名	小学校				
授業日時	2015年1月28日	学年	1年	教科	算数
単元名	なんじなんぷん				
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時刻を読み取り、日常生活にいかそうとする。</li> <li>・ 時刻盤の目盛りは5とびであることを用いて、時刻の読み方を工夫して考えることができる。</li> <li>・ 何時、何分の時刻を読んだり、時計で表したりすることができる。</li> <li>・ 何時、何分の時刻の読み方を理解する。</li> </ul>				
単元の流れ	<p>①【本時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 何時 何時半の復習をする。</li> <li>・ デジタル時計から未習の時刻を表した時計が11時10分と読むことを確認する。</li> <li>・ 「11時10分」の読み方を考える。</li> <li>・ 早く正確に時刻が読める読み方をペアで考える。</li> <li>・ ワークシートの練習問題をやる。</li> <li>・ 時刻の読み方についてワークシートにまとめる。</li> <li>・ 時刻を表した模範時計を読む。</li> </ul> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1日の自分の生活事象の時刻を、ワークシートに書き込む。</li> <li>・ 自分の1日を、模型時計を使って、ペアで発表しあう。</li> <li>・ 時計の読み方の問題に取り組む。</li> </ul>				
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時計を見て、時刻を読み取るができる。</li> </ul>				
本時の授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input type="checkbox"/> 少人数学習 <input type="checkbox"/> 習熟度別学習 <input type="checkbox"/> グループ学習 <input type="checkbox"/> 個別学習				

## 活用実践事例

ICT活用場面	
授業場所	普通教室
ICT機器活用場面	<input checked="" type="checkbox"/> 導入 <input checked="" type="checkbox"/> 展開 <input checked="" type="checkbox"/> まとめ <input type="checkbox"/> その他
	その他
活用者	<input checked="" type="checkbox"/> 指導者 <input type="checkbox"/> 学習者 <input type="checkbox"/> ICT支援員 <input type="checkbox"/> 授業づくり指導員
活用機器	<input checked="" type="checkbox"/> 電子黒板 <input type="checkbox"/> 指導者用タブレット <input type="checkbox"/> 学習者用タブレット <input type="checkbox"/> 実物投影機 <input type="checkbox"/> その他
	その他
活用コンテンツ	<input checked="" type="checkbox"/> デジタル教科書 <input type="checkbox"/> SKYMENU <input type="checkbox"/> Schoology <input checked="" type="checkbox"/> その他
	その他                (東京書籍デジタルコンテンツ、学習探検ナビ、OCT君と学ぼう ( <a href="http://oct-k">http://oct-k</a>
タブレット活用形態	<input type="checkbox"/> 一人一台 <input type="checkbox"/> 学習班に一台
活用の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルコンテンツを使い、1学期学習した「何時 何時半」の復習をする。</li> <li>・本時では、教科書の挿絵と同じデジタルコンテンツを使い、時計の短針・長針の役割、目盛りの意味を確認する。</li> <li>・練習問題にとりくむ。</li> </ul>

# 活用実践事例

授業の展開		
学習の流れ	ICT活用場面	ポイント
<p>【出会う】 何時 何時半の復習をする。</p>  <p>教科書の絵を見て、その様子を話し合い、未習の時刻を表した時計と出会う。</p>	<p>電子黒板を使い、既習した時計の時刻を提示し、ちょうど何時、何時半の時計の読み方を確認する。</p>  <p>デジタル教科書を活用し、絵の様子と時刻を関連づける。</p>	<p>電子黒板にデジタル教材① 学習探検ナビ「とけいルーレット」を提示し既習学習の復習をする。</p> <p>電子黒板でデジタル教科書の画像を提示、時刻を日常生活の活動と関連させて読む。</p>
<p>とけいの よみかたを かんがえよう</p>		
<p>【気づく】 デジタル時計から未習の時刻を表した時計が11時10分と読むことを確認する。</p> <p>「何時何分」の時計の読み方を考えるという学習課題に気付く。</p> <p>【考える】 「11時10分」の読み方を考える。</p>  <p>早く正確に時刻が読める読み方をペアで考える。</p>	<p>デジタル時計とアナログ時計を同時に提示することにより、11時10分と読むことを確認させる。デジタル時計の数字とアナログ時計の長針がさしている数字の違いを気づくようにする。</p> <p>文字盤では長針が2を指しているが、10分と読むには目盛りを読む必要があることに気付くようにする。実際に模型時計を使って、目盛りを1分ずつ操作し11時10分と読めることを確認する。</p> <p>デジタルコンテンツの時計の長針を1目盛りずつ動かして、1目盛りが1分と読めることを確認できるようにする。</p> <p>模型時計を使って話し合うようにする。早く正確に時刻を読むためには5分区切りで目盛りを読むことが必要だと気付くようにする。</p> <p>(長針の位置に注目し、11時50分、の時刻を読ませる場合、5分区切り・10分区切り・30分から5分区切り・30分から10分区切りなど多様な考えがあることを確認する)</p>	 <p>電子黒板に提示された時刻を日常生活の活動と関連させて読むとしている。</p> 

## 活用実践事例

ワークシートの練習問題をする。



短針が文字盤の2つの数字の間にある場合、小さい数字で時刻を読むことを確認する。

デジタルコンテンツの長針を1分きざみで動かして9時58分、9時59分、9時60分と読み間違えないように、12を指している時は「〇時」であることを確認する。